

況を、「縫糸の性質」と縫製時における「縫糸の張力の大小」などと関連させて検討した。

材料は、マーベライズ・テトロンブロード・テトロンミシン糸(フィラメント糸・スパン糸)・木綿糸(防縮加工糸・改質綿布用糸)・テトロンコットン混紡糸などを用い、HA×1・11番の針、家庭用ミシン(1/16HPモーター付)にて、試布をたて方向に長さ60cm・幅5cmに切り、6目/cmの針目で、縫糸の張力を大・中・小の三段階に区分して縫製し、パッカリングの状況を検べた。

その結果、縫糸の諸性質の中で、特に、伸度・ヤング率・残留伸びなどの大小は、縫製時における縫糸の張力・縫製後のカップリングと密接な関係がある。縫製時における縫糸の可縫最低張力は、フィラメント糸よりもスパン糸の方が大である。かつまた、伸度大・ヤング率小なる縫糸の場合は、この張力が小となる。

シームパッカリングは、ヤング率の小なるもの、伸度・残留伸びの大なる縫糸を用いて、縫製時における縫糸の張力を小にすればこれを軽減することができる。この傾向は、伸度の大なる織物において顕著である。

B—38 織物の縫製に関する研究(第5報)
—縫糸の性質・縫製時における
縫糸の張力とパッカリング—

広島大 大池 久子
杉原 黎子

W&W 性を付与した伸度小なる改質綿布と、伸度の大なる薄地の合織織物におけるシームパッカリングの状